

2020 年度 SDGs スタートアップセミナー実施報告

2021 年 3 月 22 日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

分科会代表 稲葉 涼太

去る 3 月 13 日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会の 2020 年度 SDGs スタートアップセミナーを開催しましたのでご報告いたします。

※イベントページ

https://www.pmi-japan.org/event/open_seminar/other/2021_01_07_sdgs20210313.php

1. 2020 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

■ 【SDGs スタートアップ研究分科会とは】

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、昨年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しております。

A) ベーシックコースについて

SDGs が社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGs を絵に描いた餅にしないために実際に SDGs を事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs 事業の取り組みを始めようとしても立ち上げ推進が中々効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。

「How to Achieve SDGs」のために SDGs 事業に即したプロジェクトマネジメント手法である『SDGs スタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースです。

本年度も、企業・自治体・学校・宗教法人等 20 団体近くの多様なバックボーンを持つ団体に参加いただき、10 月、12 月、2 月の計 3 回の分科会を開催しました。

B) アドバンスコースについて

アドバンスコースは原則として昨年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDGs プロジェクトを対象として PM 支援を行いました。

2. SDGs スタートアップセミナー概要

- 開催日時：2021 年 3 月 13 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分
- 会場：オンライン(ZOOM)
- 主催：一般社団法人 PMI 日本支部
- 後援：内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」
特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会
- 開催趣旨：本分科会の 2020 年度の集大成として、以下の講演を行う。

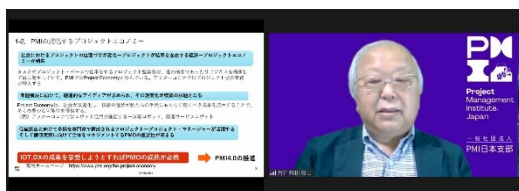
- ・ 講演 I ベーシックコースから SDGs スタートアップ方法論の概要
- ・ 講演 II アドバンスコース参加団体から方法論の実践事例

■ 当日の概況：

当初定員を 100 名で予定していましたが、開催案内直後から申し込みが殺到し、最終的には増員設定した入場チケット枠 480 が満席になりました。

SDGs 事業立ち上げ推進への関心の高さを感じました。

- 冒頭は開会挨拶として PMI 日本支部会長の片江有利から PMI 日本支部の活動説明と社会的意義について案内を行い、SDGs 担当理事の藤井新吾より、PMI 日本支部ノ SDGs 活動についての説明を行いました



図：PMI 日本支部について

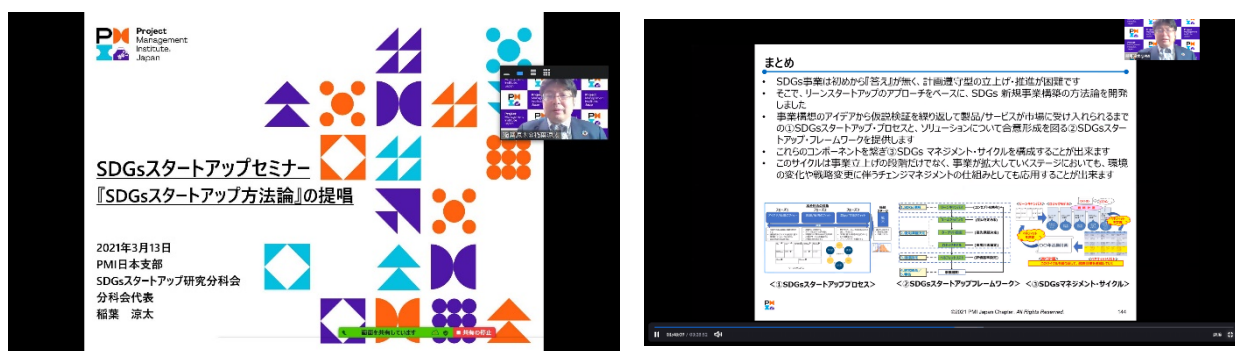


図：PMI 日本支部の SDGs 活動について

- 講演 I では PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究分科会代表の稲葉涼太より、
【『SDGs スタートアップ方法論』の提唱】と題して講演を行いました。
講演前半ではまず SDGs の本質とは何か、世界的になぜ重要視されているのか、そしてなぜビジネスシーンで重要視されているのかを説明した後、経済価値と社会価値をとともに向上させる CSV について説明しました。
そして後半では SDGs 事業を立ち上げ・推進するための当分科会の活動と「SDGs スタートアップ方法論」概要について解説を行いました。
SDGs スタートアップ方法論は大きくは以下の 3 つから構成されており、本講演では

SDGs スタートアップ方法論の有効性を提唱しました。

- ① リーンスタートアップをベースに変化不確実性に対応しながら素早く仮説検証を行い顧客探索と製品・ソリューション探索を同時に行う「SDGs スタートアップ・プロセス」
- ② SDG コンパスと呼ばれる SDGs 事業推進時におけるグローバルスタンダード指針をベースにし、リーンキャンバスで SDGs のコンセプトを組織内で共有し、ロジックモデルで SDGs 事業の実現計画を策定し、ベネフィットリストで事業の評価基準を策定して素早く事業計画の組織内形成を図る「SDGs スタートアップ・フレームワーク」
- ③ プロセスとフレームワークを繋ぎ合わせてチェンジマネジメントの仕組みを作る「SDGs マネジメント・サイクル」



図：講演 I 資料より

- 講演 II では PMI 日本支部アドバイザーの高橋正憲がモデレータを務め、アドバンスコース参加団体である、舞鶴工業高等専門学校の内海康雄様と株式会社カルティブの小坪拓也様から SDGs スタートアップ方法論の実践事例の講演をしていただきました。舞鶴高専様、カルティブ様とも 2020 年度 PMI 日本支部がアドバンスコースの中で実際の SDGs 事業の PM 支援をさせていただきました。

- ◆ 講演 II の前半は舞鶴工業高等専門学校校長の内海康雄様が『舞鶴地域における小規模河川の浸水対策について』と題した講演を行いました。

舞鶴工業高等専門学校が舞鶴市、KDDI 社と三者協定を締結し、のちにオムロンソーシアルソリューションズ社が参加した小規模河川の防災対策プロジェクトの事例をお話いただきました。

内海様からは、リーンキャンバス活用により受益者と課題が明確になったことで、それぞれに適したソリューションが提案できたことや、ロジックモデルの活用により関係者間の連携と合意ができたことなど、SDGs スタートアップ

方法論を活用した効果についてお話しいただきました。



図：講演Ⅱ資料より内海様の講演

- ◆ 講演Ⅱの後半は、企業版ふるさと納税コンサルタント／river 認定講師／地方創生 SDGs ファンドレイザーである、株式会社カルティブ の小坪拓也様 が『企業版ふるさと納税を活用した地方創生 SDGs 事業の推進について』と題した講演を行いました。

小坪様からは「企業版ふるさと納税」という特殊寄付税制を活用した、地域課題解決を目指す自治体と企業のコーディネートサービスである「river」という事業のご説明をいただきました。

小坪様からは、リーンキャンバスにより事業活動と市場ニーズのすり合わせを行うことで全体の事業戦略に一貫性を持て市場を見ながら検討する癖がつけられるようになったこと、ロジックモデルによりチームの合意形成が行え、施策の不足部分や翌年の重点個所が明確になったこと、ベネフィットリストにより事業の重要ポイントが抑えられソーシャルインパクト評価の土台になったことなど、SDGs スタートアップ方法論が事業に有用だったことをお話しいただきました。



図：講演Ⅱ資料より小坪様の講演

講演後の QA セッションからも多くの参加者からご質問、ご意見をいただき参加者の関心の高さが伝わってきました。

また本セミナーの参加者アンケートでは参加者満足度が 93.5%と高い結果が出ており、多くの SDGs 事業担当者や今 SDGs 事業を行う予定の参加者の効果的な SDGs 事業推進の一助になれば非常に幸いです。



図：QA セッションの様子

3. 今後の活動予定

2021 年度も引き続き当分科会の参加団体及び PMI 日本支部メンバーとしての分科会運営スタッフを募集します。

2021 年 4 月以降、PMI 日本支部 WEB サイトで随時アップデートしていくとともに、内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」のメールマガジンでもプラットフォーム会員様向けに随時ご案内します。

PMI 日本支部 SDGs トピックコーナーをご参照下さい。

<https://www.pmi-japan.org/topics/sdgs/>

問い合わせ先：PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)